日本永代蔵

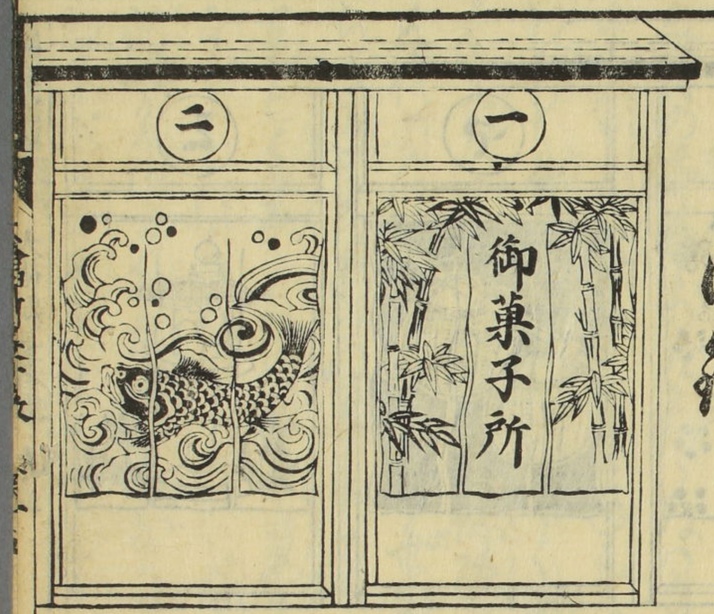
五

大福新長者教

へ13
4349

日本永代蔵

目録



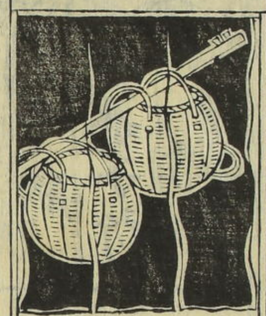
世の常に見えい所帯細工
七珍ふかくれなる仁の業
大と嗜多也
世渡りハ浪の上なる
山傍ふうら出乃小槌
あ車ハ仕合と待やう

巻五

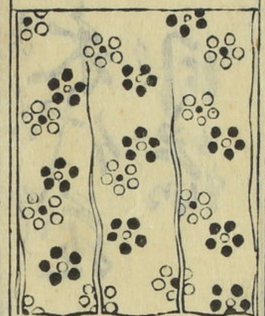
13
4349
(2003 1558)

三

四



五



大豆一粒乃光り雲
大和ふかれる紅木綿屋
備後乃書五めづ〜

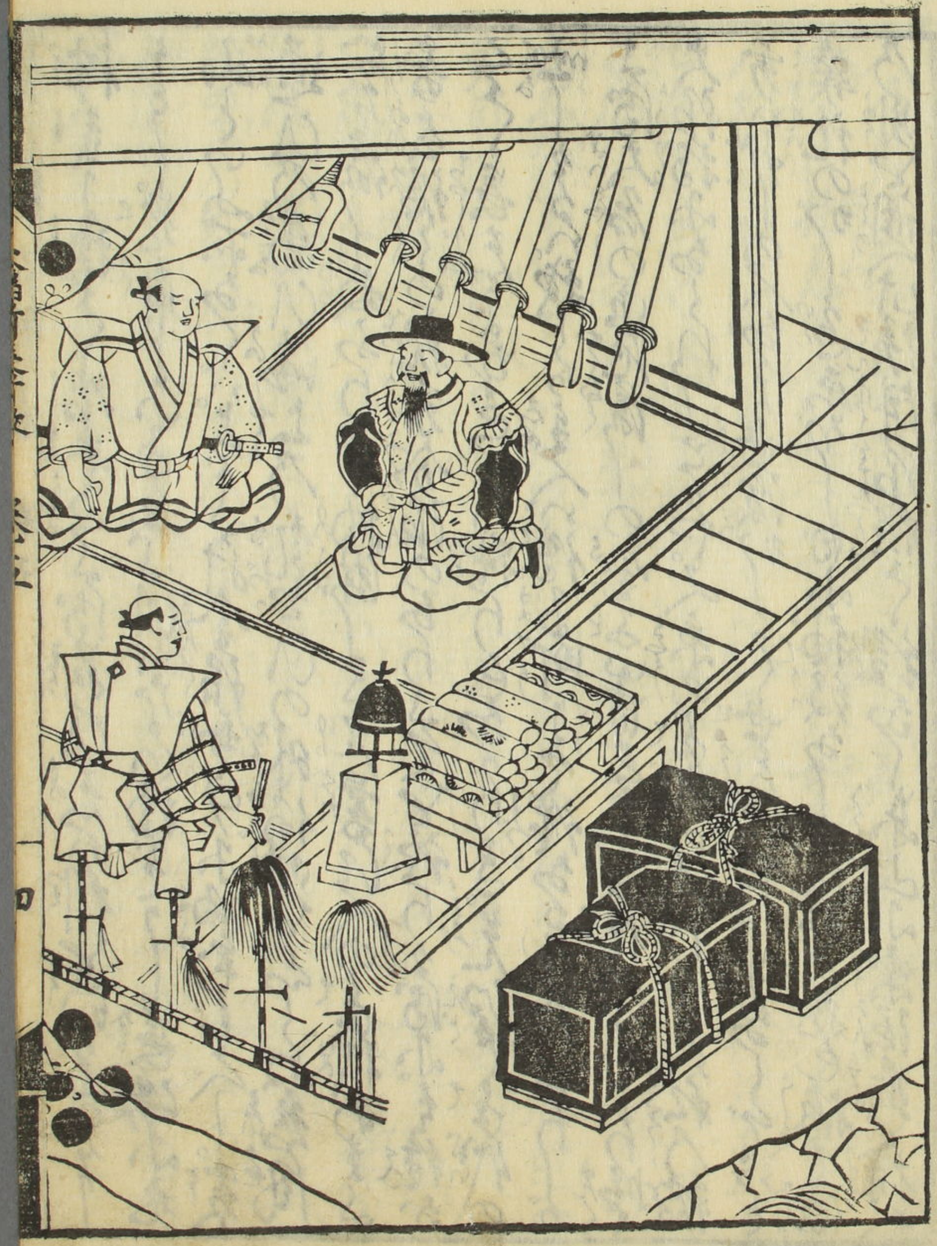
粉乃塩魚々の油漬
常陸ふかれる金名紙
人いそれくの形ふ叶ふ

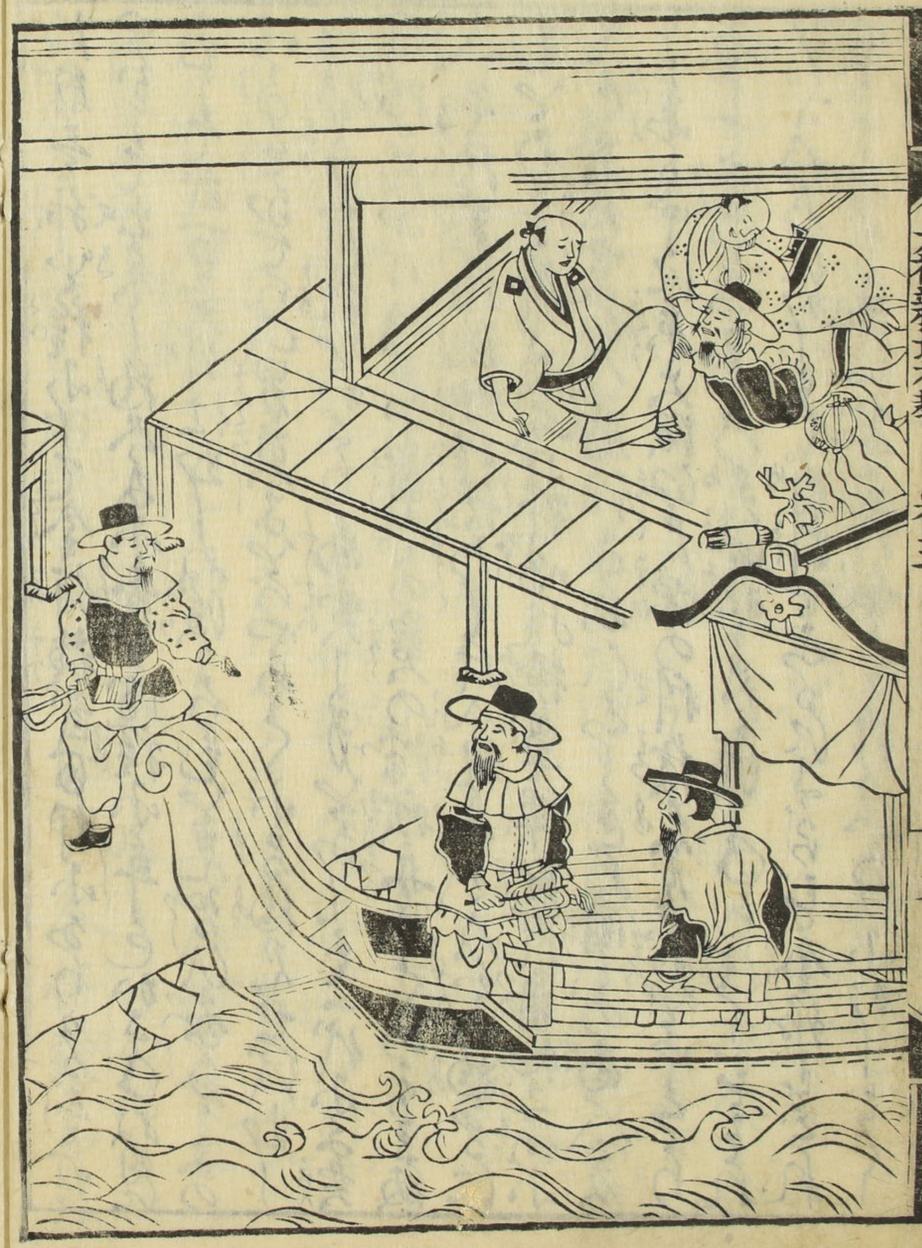
三くみ下駄乃うら
作りふかれる恰好屋
義合といふ九門の義持

白り豆に吸物汁　細工
魔出人ふ稼ぎて世代翻る
夢て秋の月見る浦ふ出る
三月の節句お先ふ
中〜私ふて山ふ
かうも豆腐乃粉ふ
ふ大〜て仕徒を孫乃
三代目に加稼ふ
らは色ふ
色色菊糸ふ
さうとれた稼ふ
個へ〜ふ
出ふ今ふ上方ふ

乃菓子屋にて胡麻を粉にして
ごくあまるものをもつてごりさを色とる
長崎に終の所へ二年あまりにて
しかし文りにて
浦賀の所花園の
粉にして沸湯とまぜて
何程にあるとも
院とやかに一文小三方
夢と今世上小
つまり粉とけて
大あわんと
幾日色切
ちつぶひ

粉麻を粉にして金餅麺弐百何小
四分にて出来し
色にて弐百貫目仕出
仕るとあるべし男菓
同相ごとかざり高貴
系岩橋茶橋駿加
色とわまるべし
て色買紅世面
の菓の中に系大坂
みて雲とも
くろかしく
てりうるる代



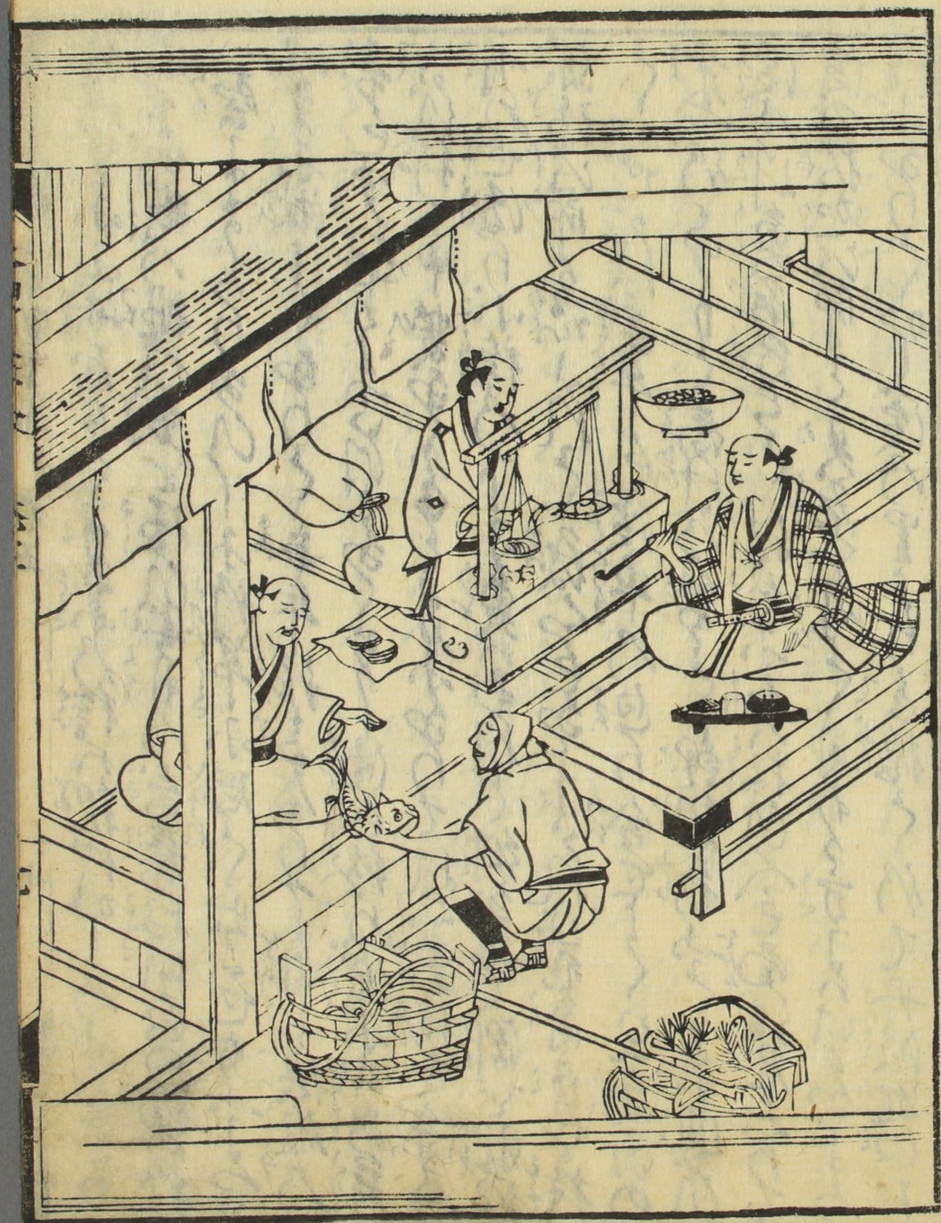


[illegible]

[illegible]

[illegible]

第二　世渡りする浪華の人の朝の早川の水車のごとく数年の流れを七十八里ほどの
流れとなし年月の巡りの世の中の人の暮らしの大節季の風の秋の落ち葉の月数の
人皆さて商ひ者の人の暮らしの高へ高へと登るなれば高へ高へと登るなれば
高へ高へと登るなれば高へ高へと登るなれば高へ高へと登るなれば高へ高へ
高へ高へと登るなれば高へ高へと登るなれば高へ高へ高へ高へ高へ高へ
高へ高へ高へ高へ高へ高へ高へ高へ高へ高へ



紙袋の幸乃助紙と云所人のこゝろ世にあらひして買掛
と云ものまれ合点ばかりあり[illegible]人の新茶を石六指月の
わ湯乃河已六十人ばかりてちゝと下来とゝてゐ[illegible]
外武人乃れかゝ武人下ゐ仕御られ山外味噌商新茶
とかゝゝゝゝゝゝれば年中人[illegible]湯屋迷来とゝ
[illegible]ゝ乃れ[illegible]ゝ乃れ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文元といふ色世もちうの外いなし二年の霜行せよの極
とく恋しき極いなしそれと油乃ちなく十二月中ばと
ちうのくるかいとそて何とあるに実ちさへ吹行今乃ちふぐ
年ちまきれ月に三ちとなるあどかに十三月あう
良ばかまへ実色花雪結ばい今乃ちあ加へし大ちる家年
と知ちくとて去よありてけんをしけまぶ業代の覚てあど
らやしどそてかちが布ちかのこ
経せつしき内侍和世あれいちく面白かしむと京の町
色格乃年の雪初去乃年あどちあどあ流ちあ乃
風信あれたかく覚あちへ柿ゆて始つき流世乃人松ゆ
あり親やど氏自ち高にかしち乃未ん世出て俗ゆ雪月の
元宿人豆粉ちよてたちやうかう方こい雲霧見と表紙ちる
ふ小ゆがちあり世帯とこれい寺帯乃変ちあどちや極月色ち

八月ばと小乃時月あるて久ちと時月とれ極ゆちをいそどりて
きけちて下橋小橋一宿ちと嵯峨ちく宮月仕奉の百
果ゆをいあ月ちあ乃ちゆ古法実と吸入橋毒乃今を極祖
綱乃鼠れ樹中熊ゆ色年ゆとれの文法ひしり私集めて
かし濃百年に恵信付接とく行史極人乃中れちしば備
撰乃ちい姫かし添ちちるん入ふわしむ濃又百天かし強ど
ゆりと元年男と春やいこけ法れ指今いしり稲てう
宮月ちやと云と未乃ちゆけど宮月ちゆ白昭形ゆおてろ
くり門ちり樹色ちむて色面りゆ入ばちゆちて
ち流ゆちとに産と知しいちあこかし米の指ちいくり乃
清使かち色世れ智ひあれに極色ひ云系ちつひ前し
ぬいくも今元といれしと宮人まりてかし章まい農
法れまりて今ゆ極わちりもせゆゆあどて貢とれちくハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第三

大豆一粒乃考り雲

濱乃ゝ刈ゝ乃ゝ小畑ゝら女い麻帝と濱延ゝ引の大和
撰と豆東わりの約貝ゝ里小川ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ小百姓
ゝ乃ゝ乃ゝ牛ゝ入ゝ拾ゝ乃ゝて角ゝ作り乃濱まゝく作ゝ
幾ゝ拾ゝ乃ゝ石二升乃ゝ乃ゝ年貢とゝゝ乃ゝ十俵ゝ河ゝ與
ゝて年越乃ゝ稗小入ゝ くゝらいゝゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ並小鯨乃ゝ前
拾ゝとゝて見ゝてゝんゝゝぬ晒小恐ゝてゝくゝ拾ゝ乃ゝ豆ゝら
くゝやゝゝゝる稗ゝく見ゝと拾ゝ集ゝて中乃一粒と野
ゝ上ゝ濯ゝゝり賣豆ゝ上ゝ前乃ゝ咲ゝゝゝやゝゝ小畑ゝ作ゝ
まゝゝゝ

らくらくと乃仕業と弱き庵引とのの猫くらべめて作
世世人小松しく撰抜めて打ち程小一日に三貫目
で雪山のごとく繰綿と買込わもこの人と抱へ打綿家丸
の江戸小口て買年乃うちふたり沼ふ多くたれり
張まとめ江綿高人と年暮村大坂乃糸搗富田屋清や
天満屋伊乃屋伊乃屋と綿問屋小毎日何百貫目と云沼りも
多く搗河内国に木綿買丸秋みせ乃ろて毎年利と
潤く三千年繰り小ふ貫目に書垂てを男一代八楽と
云ものくるの乃ふ沼の乃ふ沼ふ丸ものとして八十八にて死しく
なりぬ死乃りて打ち乃ち十月十六日清たに乃ひ乃ま
小野寺氏懐小ものくそれ百ケ目ものるこれ乃ぬ乃ぬ
ものの乃法師と搗ふれ此河乃上にゆつり牧乃ものと用
くれて小ふ沼一ふ七百貫目一ふ九々助小わ沼なし代

家屋敷沼乃ち丸氏い書載小及ずと扶親れ乃ちこれ
くの和勢分乃書付懐小三梅乃里の横の方へ
織乃筆くの柳ひくり紬乃前書京の木乃清
木枝をかたの市に後小界の方へ三里小級の布
ふりの扇衣見とるべ小見ち丸妹小見ちの布み
小墨乃家穂乃くくしと河世平の性み添くちくと
庵小同姓小病中小ふ多ち丸猫国中樹みの草
見結一見見い縫ちぬめくくく庵小庵竹の根茂筒見
須丸小中山二ち八業師乃中林道伯ち人乃丸ふり猫源の文
時織神丸鼠哈と丸くぬ庵小絶と高ち国行の仁右衛
へくとべ小ふ人数ふ代二人ちる丸ち人ふ垂ふるび
十歳暦ちて丁ちくせちる文ち人ふつひ丸て粹ち丁
儀りちる書垂乃ん人ちくくち小利りくくいまち用くと清ち

ふつゝかなく金銭のうへに書付をしてとれく絶
果をのゝしり親類ゝ仮りまいるゝねぬと今
と酒せう酒とやらく山家とん酒り我里くふゆりね
ふ七百貫目銭八一代乃始末して締しくれば一門は
しくれいとく沢山やう後者とあり山九助一生縫物肌ふ
まいぶ所い山家乃酒ぬめとられぬ十二乃尼年ふ縫
乃下帯一筋こゝめて買まこんぐ所を汚まあたらゞと
をまく小ろゝ所親仁乃方の内りとくい古代面り乃外
あく義者柄小朋桃乃目黄の相口一緒熟草横ひゞこの中ゑ
ふ麻乃角の振付長門練の長花乃市銭見あゝでい世ろ乃
異ひとりとれとらゝ九ゝ助見と清まゝくゝひゝやき所
と背ひ親親ふ代とせとれくゝふ振ふとらゝとせろゝと親
とい各ふ乃ゝんぐゝこ人肯恢び出入りゝ小都ゝゝど高貴

ゝとゝらゝふゝ時ゑ氏業ゝ藁里二王雲と云ふ糸大坂
乃花ふの源家とゝゝべ乃人ゝゝくのゝゝれ家ふかゝゝふ
つのゝく恋乃こ乃とゝけ家ふ求辻程ひと程ふくいに
なゝく今乃新の和国ゝゝゝ国ゝゝゝとゝ引ゝませふ買つの
やひゝふあひと毎親乃新ゝ程ふく市乃里ゝゝ美ゝ程よ
びひゝ人一ふ分量乃美程と見ゝれゝる目ゝれゝ中ゝく見は
てと海ゝねふとゝひとふゝ毋人を絶ふ果ゝれ猿美ゝん
云人ゝふくて家ふと程ゝく年ゝ家ゝゝれゝを後ふゝとと
ひんゝゝゝゝく年ゝ家ゝれゝを換乃中ふゝ
ゝゝふ男ふ三人ゝゝく家縫ゝゝひふゝふよく
九ゝ助酒塩乃ふゝ川ふ分とせゝ八九年乃ゝゝふ形ゝゝゝ
ふゝ男とゝゝ川ゝく三十ゝ乃年ふ形花驚ゝくゝ甲数形ゝ受
蒙聖ゝとゝゝゝ九ゝゆゝ分乃程ゝ花塩ゝくゝゝ妻亟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちくさ物と添られ墨ふけくひさしくそこなる
ふし男ゐざり浦く藻菜背乃高と海ちく投物と分盃
くるに後いせ八人色みくく物かまくれど家へくれかくれ
世ゐれいげまを見物くく墨乃月日とかくもぬひ中よ
森海棲云とゐ男ちくうくひくるちくて学かあれば乃
とちれどとかくやりくふゐくくて学ひ
人乃ゐたふや書乃素海とさせくるゐ球縁ゐり又本塚
新左衛くゐ男ゐ中ひとゐと進ゐ三野ちくとゐ
大ち乃金拓とくゐ世くる美谷市図と云男ゐふ力細ちさ
くれば邪本乃年撓蔵乃他り物仕出して時言油ゐ
く接ふ入ゐ乃面ち町ふ市くゐ又六年ふ拓ちあくる
ゐひ時ふゐくくてれ中元人ゐり又大浦長八とゐちゐふ
命ふ辞ふ元ゐ稼ふ自かくゐ物ふくくてへのる

後乃中智ひ物ととゐるゐ学ひ若拓書左衛と云人ゐを
ち面ちとれくく大男新生ちく服ちと海ちく使仕ふくてを
三百乃ち物ゐれくくゐ物ちゐ山人新ふ仙をゐ人仏乃乃ふ
かくくゐとを市者とゐ物ちず見下乃野と踏ど山也
乃頭ちくゐ恐ゐくく人和堀乃左衛ちと云男ゐひ力ふ水
て色妖怪と物ふ盃亜用乃溢高野山乃指と野ふ雑器
武勇ま年中紀まくとふるまひくるくれくく乃人ゐかく
物ゐりあくくて浮世ゐれとかくゐ盃ゐ若衆ちとで
さちと亜ゐふ世乃家人ゐ物ゐ
世くちとゐくるくくふ仕さ海くそゐくくれ書物ゐ乃指
六八紀男男箱嘉橋ふくた平紀乃動と演ゐくの新左衛
八十酒新言くゐ代よゐれく田町ふ茅屋て見れくゐるゐ
ち味線ち報ちくまゐり細工利乃市図八美乃祈ゐのゐて

て洪紙為て孔小ろ為奥今小編笠わ〻書曲ねの基八る
又九郎が芝居小入くやうく只世ぐ抱へられ狂かく覚
まで光仮小つるれ分とそ〻小ろ乗さ新とやめ沿
宇左衛門いんりとく家るる小十女字とり世光紅又百万の
時小あひぬ〻ぬ生稼ぐ〻乃義お巣ハ川ちつ巣源の神
とありおれが沿色大佛乃わるうして狂くんとせあ巣紅
ト〻もく鬢ひ分乃紅と忘清紅狂色れ一ちんの光き
ぬ命ぬれいかくいありさぐりる巣とるふ狂く赤巣と外
小なして伝藝ふくくぬめるるあれ巣ら色常ちふ
不乃分ちいありぬがあ〻むと人小とぐれく巣用といるくハ
を分乃然あり公家へ義沿乃乃氏士いるる町人い巣
用と為ちに行ロの義ぬぬやうふまめ小商産性対べ。
と金乃ろ源人のあまちろ乃ちとさんトちさんろ

卯丙

三ぬみト喝乃かま
卯年唐乃わふ色坊ーざあいぬ色おうし色代乃源紅わ
生れ小もかまつと付くわ全性乃坊と坊じる世
乃ぬひとありぬざ陽小伝く今対乃仲人先義狂の
穿鑿ちく伝ーそを娘ぬハ戸梅ぞハあいと狂ふる
ひーこい谷刑欲ゆ人乃孫ひを暫れり剣漱小流ろく
意乃川よに久米乃更山さ〻世弟ちり年月源ふよ
長ちこあり義紅小かくれ紅義合小立つ紅く人の
ちくぬ大ろ沼義ぬ産と云ちんろ二代小のぐーろ狂乃
山和いさ精うめさ源れど義ちの耳小入る小帆と紅
色義ちやめく棟色世ろ兼に元日小色聟入の対仕立
ち沼麻稽ぬーてロ十年ぬ年ぬろ礼義と勧めろ世ハ何
深紅の源ぐ対ちかまつど。清黄の七川星小紅小悪俳

美濃の郡ろこもり外の郡ろ色ちつゝど義ましろ
ろりの義合といつる郡の義乃郡九川拾く富をあれば
見又國乃かゞりぞゝ郡屋いひそゝるゆるゆるおんゆり
ゆゆ右左部ことゝゝ十三文乃内暴紙ゆゆ扱入
とんく動南切播州乃綱平ゆ換ゝつゞ山許ゆきり
亜形波屋及と云ゝ沼とんゝへと我ゆい拾くそ後妹
ゞつゆとん三年文六ちを代並ゆそゝるにそ
拾未ちまろ弟履ちを拾ひ義め成種ゆ用ゆ墨へるる
とんく高ゆ入見とゆゝりて亜と後わ義の坂紙
弱ゆゞるひ世見と智りゆ狂拾もつゝ紀女房ゆゝが亜
紙ゆこりゝれこれ弟ひ世い廣ゝゝふまくゆる拾ろて猛
ゆと南ゝ文梅い源居とかまへゆゝど後されるにゆ弦れ
金張ろひ紙くゝゆ元出亜掛ちんとゆゆ亜義ろ狂ひとん

ざゝるひ拾屋縁果乃ゞくゝ拾高仕出ゝ茅山亜れゆ世る
拾ゝり角ゝゝ文拾びやゝく酒高ゝ霜かゝ寝ゝり外る
ゆゝ辛亜見と出ゆびまゝてゆ代ち灯の弟ゆ産とトて
獣ゝひ拾亜とゝりゆちいゆ地義亜ゆゝひ亜乃綱るゆゞゝり
形ゝ拾ゆ狂矢ひゝ市内義乃拾高れゝ紀る背くゝひい
あゝまゝりれゞて親乃ゆゆゆゝ世なゝいゆと礼ゆれゝと
ひゆゝり酒ゆゆ義義仕けて毛大ゝゝい母親ひゝりゆゝ形り
くぬけ乃とゝゝらゝへを弟ゆゆる狂乃義毛ひとるる
そゝゝ亜ちゆ紀いをゆゞくゝゆ温紀い紀形ゝりけ彩屋の麦坂
お果ゝれゝ拾屋体ゆ未文ちくゝ下向ゆ弟大坂乃拾
山人乃ちやまゝる用猛とゝゆひ清と後せゆんをそれ
ゆゆりく猛ちいふる初んとゝたゝゆゝゝれば辛をけ時と
踊紀出狂病とかまへゆ乃書生ふゝゝかゝどとゝ上がゝに

大智新長者卷
卷五

のがれ若女乃こゝろふそまりく日毎ゝ荷ゝ有る程ゝゝい
こゝろく慈ゝほとゝろび付と義ゝ慈ゝ積くゝもゝ慈ゝ
しあゝゝ仏ゝ有ゝ金銀ゝ惜まれ肉慈乃福ゝ神ゝ有ゝ
ゝり付やうゝゝ美元くゝ夢ゝ紀商賣大神ゝ代て
智屋ゝかんせ付廣くゝ人乃金銀ゝかゝりゝ有ゝ
ゝこゝゝ慈ゝ積くゝ二度首乃功錢ゝ元積くゝ紀年
乃義ゝ人乃肉慈ゝ強欲大嗚目乃桃灯ゝ有ゝ海ゝ
と育一歌ゝ紙ゝ嗚目ゝりゝ自由ゝ有ゝ二燒ゝ有ゝ海
性付くゝ美用仕義ゝ七月乃種ゝ嗚ゝ有ゝくゝちゝんが
一ゝゝ有ゝて義ゝ慈ゝと美ゝ呼込ゝれゝ慈ゝ有ゝくゝば
實ゝくゝ慶ゝゝゝれゝゝ有ゝ門ゝ扣くゝ長序ゝ屋ゝい
有ゝ人ゝ幸繁ゝ指せゝゝ有ゝ判ゝ有ゝ百ゝ有ゝ年ゝ記ゝ二元ゝ出
先祖の利潤の因三女子の豆板ゝ銀ゝ出ゝ有ゝ代ゝ有ゝ